

第2回多摩川流域市民学会 多摩川の自然環境の変遷から見た多摩川河口

多摩川の自然を守る会代表 柴田隆行

(1) 市民による自然観察記録の大切さ(第一回大会で既述)

継続性 過去は取り戻せない
一般性 話しを聞いた人の多くがみずから経験者

(2) 多摩川の自然環境をめぐる市民運動の流れ

水系の思想

1973年に三多摩問題調査研究会という市民団体が『水辺の空間を市民の手に』という本を発行したが、その副題は「水系の思想と人間環境」というもので、河川をめぐる当時の自然保護運動に大きな影響を与えた。

この団体はその後解散して、1993年に「分水嶺を越える発想」を掲げてATT〔荒川・多摩川・利根川〕流域研究所を新たに発足させ、いまま活動を続けている。

2000年に多摩川源流研究所が小菅村に設立され、源流と下流との交流を進めている。

水循環全体の解明

1988年に水みち研究会が発足し、野川を中心として、三多摩問題調査研究会などが1970年代から着手していた湧水・湧泉などの調査研究・保護活動をしている。

2001年から国土交通省京浜河川事務所を事務局として水流解明実態プロジェクトが展開され、2007年に行動計画指針(案)を発表した。

降雨から流水、地下水まで含めた水循環全体を捉えようという考えのもとで多摩川が見直されようとしている。

(3) 自然破壊はいまでも

多摩川の自然を守る会の第二代代表で、1974年9月のいわゆる「狛江水害」で自宅を多摩川に流失した、故横山理子さんは、同年12月、日刊工業新聞社発行の『施行技術』という雑誌に「多摩川に家を沈めて 水系として川を把える治水計画を」という文章を寄稿している。そこで横山さんはこう主張している。

「私は今年の夏の初め、2時間ほどヘリコプターで東京の丘陵地帯一帯と多摩川流域を上空から視察する機会を得た。そこで見たものは、多摩川の支流の水源をつくる丘陵地が、見るも無惨な開発によって破壊されていたことである。東京都の海拔100～200メートルの等高線の間はゆるやかな丘陵地が多いが、多摩川の支流はそこに源を発するものも多い。その丘陵は古くから保水の役目を大きく担ってきた。それが市街地となり、ゴルフ場となり、そのスプロール現象は素人の私でさえ、これは大事だと思わざるを得なかった。秋川(多摩川の一大支流)の源流は山砂利採りのためにV字谷が逆三角形に土砂が露出し、その谷を通る川の水は茶色に濁っていた。尾根ひとつへだてて流れる多摩川は上流の石灰岩採掘のため水がコバルト色と化していて、その二つの川が同じ水脈から出るものとは信じがたいものであった。また多摩川上流の水源林は一業者に石灰岩採掘のため所有地が貸与され、その山をおおう原生林の多くは伐採されている。

〔中略〕

9月1日狛江が朝から多摩川の異常な水量におののいているとき、多摩ニュータウンの緑をむしりとられた山肌を洗い流した大栗川の水が危いとか、八王子では雨が漸く小降りになったところだとか、奥多摩湖の放水が刻々と増しているという情報が私のところへ次々と集まってきた。朝六時頃より一向に減らない水はまだ減る可能性がない。これらの情報は、草原を滝のごとく流れるゴルフ場・ビルと舗装道路に埋立てられた丘陵部の市街地を流れる水と重なり、大きな不安となって迫りつつあったのだ。その上多摩川の上流では、今年もまた河川整備事業として新しい直線的な内堤防ができ、堤外にはグランドやスポーツ施設ができて遊水池がどんどん減っている。昭和46年頃までは台風や長雨で増水しても、その水量のピークは2～3時間であった。それが今度は朝6時にはすでに未曾有の増水となりそれが10時間以上も持続している。私は大きな不安につつまれ幾度となく川と家の二階とを往復し上流の仲間と連絡をとり合った。」横山さんが34年前に指摘した状況はいま現在も大きく変わらないというのが私の認識である。その証拠のいくつかを、過去35年撮り続けた多摩川の写真約1万枚から選んで、提示したい。

(4) 川の自然は局所で捉えてはいけない 多摩川河口はいま

川崎市は、多摩川河口に面したいすゞ自動車川崎工場跡地で、羽田空港直結の連絡道路設置を含むいわゆる「神奈川口構想」の具体化へ向け一歩を踏み出した。公開された検討会議資料では、多摩川を越すのにトンネルより橋梁のほうがメリットが大きいと評価されている。しかし、これは経済効率の話でしかない。橋梁では失われる多摩川河口の自然の価値について、時間のゆるす限り多くの画像を使って問題提起したい。

(5) 結論

冒頭で述べたことを繰り返します。

自然の変遷をじっと・長く見つめることができるのは市民・住民だけです。私たちの地道な観察で 事実 をしっかり捉え、 事実 に基づく市民・住民の感性をフル活用して、思いつきや口先だけの甘言による目先の利益に惑わされることのない生き方を、互いに協力して求め、実現しましょう。

参考

長年、多摩川の河口付近（汽水域）の自然を調査研究し、また、その地誌を研究されている上野隆史さん（多摩川の自然を守る会会員）の写真を会場に展示してあります。ぜひご覧下さい。干潟の貴重な生物の写真もたくさんあります。写真の多くは、上野さんのホームページで公開されています。併せて、ご覧下さい。

url : <http://www.tamagawa-kisui.jp/>